

## アーシャ事務局便り



\* あなたの想いを世界へ、あなたのご寄付でアーシャの活動を支えてください。

## 2025年度定期総会ご案内

三浦副代表の一時帰国に合わせ理事ミーティングを開催いたします。会員の方々もご参加いただけますので希望される方は、前日までに国内事務所までご連絡ください。日時12月18日(木)19時-21時オンライン:Zoomをご案内します

## 2024年定期総会のご報告

6月14日那須塩原市健康長寿センター会議室にてアーシャ定期総会を対面とオンラインで開催しました。事業報告の中で、三浦副代表から「平和と希望をつくる農村と食べものづくりに向かって」と題し、争いや差別社会はなぜ起きるか、貧困、戦争がなぜならないのかなど、アーシャの活動の根源について話され活発な意見交換がなされました。

\* SCSADコースに今年度はネパールからの参加希望があり継続実施 \* 3月実施のインターンシップ/スタディツアーは今回も好評 \* AOAC/AVSの活動は諸々、厳しい中でも売り上げが伸びている。 ◎理事改選にあたり、カバリエロ優子氏が新理事に就任されました

**会員ご継続とクリスマス募金のお願い**

当会の活動は会員の皆様の会費とご寄付に支えられています。皆様よりご支援・ご協力をいただき、活動を継続できることを心より感謝申し上げます。クリスマスの季節、アーシャの活動をさらに発展・強化するため、会員のご継続と会費のご納付・ご寄付・クリスマス募金よろしくお願ひいたします。振込用紙の必要な方は事務所までご連絡ください

<http://ashaasia.org/shien1/>

ネットショップ「ASHA STORE」でも商品販売に加え・会費・ご寄付・募金を扱っています

<https://ashaasia.stores.jp/>



## 事務局よりお知らせ

会費・寄付ありがとうございました。2025.4.1~2025.11.25 順不同、敬称略

誤字・記載漏れがございましたらご面倒でも事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

## 正会員

【栃木県】長嶋清、高木国男、辻野留奈、飯沼一浩・淳子、田村修也、天知稔、  
【岩手県】澤谷常清【東京都】米山敏裕、及川洋征【福井県】松田宗一  
【三重県】中西泉【兵庫県】藤岡秀英【熊本県】開善民  
【神奈川県】平野伸吾  
【栃木県】今野善郎・歩、池田桂子、梅田歩、三浦邦彦、川上聖子、田仲順子、米ノ井富美子  
【東京都】上遠恵子、北澤麻子、【三重県】岡言紀【福岡県】坂口馨子  
【岩手県】澤谷常清・ひろみ【埼玉県】北関東エリア母乳育児支援学習会  
【栃木県】菊地創・ふじ、加藤恵、天知稔、大浦智子、那須塩原教会  
【東京都】吉田千佳子【三重県】野村行生【静岡県】古橋克己【神奈川県】BLISSFUL BLUE  
【埼玉県】富山 遥香【東京都】日本キリスト教団全国教会婦人会連合  
【栃木県】Gleam and Life Store

■会費 個人正会員 5,000円 団体正会員 20,000円 終身個人正会員 50,000円 終身団体正会員 100,000円

マキノスクールは、インド、ウッタル・プラデシュ州プラヤグラージで活動するサム・ヒギンボトム農工科学大学にある学部で、本会が主に支援している団体です。実施している事業は、アーシャの会員の皆様からの会費・ご寄付、ご支援、インド三浦後援会、日本国外の様々な団体、個人の皆様からのご支援によって運営されています。プロジェクトを実施するにあたり、日本の皆様からの多大なご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。

## 特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会

<事務局・交流センター> 〒329-2703 栃木県那須塩原市櫻沢83-17

☆この会報は日本で製作・印刷しています☆

TEL: 0287-47-7840 FAX: 0287-47-7841

事務局 E-MAIL: info.jp@ashaasia.org ホームページ: <http://www.ashaasia.org>

ASHA

特定非営利活動法人  
**アーシャ**  
アジアの農民と歩む会

会報  
**77号**



11月10~11日マキノスクール伝習農場で稲刈りをしました。日頃農場部門に関わらない他の部署の職員も協力しての作業です。皆、農村から通勤しているスタッフですから、手刈りはお手のもの、かなりのスピードで稲刈りを終えることができました。カースト（身分制度）を気にせず、協働し、作業後も同じ釜の飯を食べる。農村インドでは大きな変革です。





## より多くの インド農村女性の参画を

インド事業統括責任者 三浦照男

過去20年間、アーシャがインドの農村で推進してきた持続可能な農業と農村開発プロジェクトでは、男女均等な教育、収入向上、社会的地位を目指し活動してきました。農産物をつくるだけでなく、自ら栽培したものを使って加工、そして販売するという一連の活動を行っています。単に農家収入を得るだけでなく、農村部と都市部とのネットワークを拡大し、健康で美味しい食べものを届けることで、消費者から感謝される。生産者は食べものづくりに誇りと自信を感じることができます。これが農村のエンパワーメントを生み出すことになります。自分たちの生活も農村をもっとよくしたい、という情熱を抱く農村住民が育つことを願ってのことです。農村がつくる人材、持続可能な農業技術、消費者とのネットワークは農村の貴重な社会的財産を生み出し、特に農村女性や若者に対し、農村の魅力をもう一度見直す機会を与えられることを願いながら事業を進めてきました。

### 農村女性の参画

マキノスクールでの事業は一貫してより多くの農村女性が様々な活動に参加できるよう試行錯誤してきました。インドの農村を良い方向に変えるには根強い男尊女卑の慣行の是正が必要です。農村女性自身が優れた伝統文化を持ちながらも変革を意識、そしてチャレンジ精神とその実践を経験することが重要と思われます。ですから敢えて、新しい概念、新たなビジョン、そして収入向上に必要な技術を取り入れながら事業を進めてきました。

### 農村女性に求められたもの

伝統的にインドの農村女性に求められてきたのは家事育児（幼少期から弟妹の世話）、家畜の世話や搾乳、田畠の単純労働等です。これらの仕



毎朝の搾乳、女性の仕事とされている

事は農村社会、農村生活において絶対不可欠なものです。しかしながら、これらの仕事は何千年もの間、「女子の仕事」と常識的に考えられてきました。これらの仕事に対して、

彼女たちの自由意思で使えるお金はありません。この状況は未だに農村女性の社会的地位が向上しない要因の一つとなっています。例えば乳牛の搾乳、飼料の確保は女性の仕事ですが、牛乳を販売するのは男の役割、お米や小麦栽培も男性以上に働いても販売は男性の役割と決められているのです。女性が現金を貯めることができるとしたら、こっそり箸笥貯金するしかないようです。

「農村女性の手に現金を」とのスローガンを掲げ、女性が直接現金を受け取れるように自身の名義で銀行口座を開設してもらい、直接その口座に振り込むようにしました。これはインド政府も奨励している方法です。彼女たちの意で好きな時に現金を引き出せるようにしたのです。女性自身の銀行口座を持つこと、自分の意志でお金を使えるようになったこと、これは農村女性にとって大変な変革のターニングポイントとなっています。希望に向か、行動パターンの変革が起きています。

### 勤労勤勉な農村女性

前述しましたように農村女性は幼少期より、家族愛の証として、労働と忍耐、夫や舅姑に仕えることを幼少期から教育され且つ訓練されてきました。男子に劣らず勤労勤勉であるにも関わらず、男尊女卑という農村社会環境で、農村女性に高等教育は必要ないとされ、男児誕生が優先されました。そのために、統計上の男女比率がゆがめられしまうほど、となり、インド政府は妊娠時の性別告知を禁じる政策をとった程です。

マキノスクールの初期のスタッフで最上層のバルマンカーストの男性がいました。彼の妻は14歳で結婚、実際に嫁いだのは16歳とのことです。インド政府は女性の結婚可能年齢を18歳と定めているのですが、若いうちに結婚させた方が夫や姑に従順に仕え、結婚生活に適応できると考えられてきたのだと思います。

現在のように女性が家を出て、働いて現金収入を得る



母親と一緒に食器を洗う女の子  
水道が無いので水汲みも大変。  
合同家族は食器が多い



## 北インド農村女性の フェアトレード活動を 応援してください

国内事務局長・三浦 孝子

私は、現在、アーシャ=アジアの農民と歩む会の事務局を担当していますが、過去8年間バザーチャリティ事業の販売を担当してきました。

フェアトレード商品としての布製品などは、まず、手に取っていただくことから始まります。モリンガ商品は、出店のたびにピュアモリンガティーとブレンドのお茶、モリンガ入りチャイなどを用意して、試飲していました。スーパーフードと言われる世界一栄養豊かな木の葉のパウダーというだけではなく、アーシャのモリンガのおいしさ、使いやすさ、なども実感していただいています。

おかげさまで、モリンガパウダーやモリンガ入り岩塩の販売数は順調に伸び、秋モリンガが到着する前に、春モリンガの在庫切れが起こるといううれしい状況です。かつては、「モリンガって何ですか?」と聞かれることが多かったのですが、最近はマルシェ出店中も、モリンガを知っていますと言ふ方が多く、その上で試飲していただくと、「あ、このモリンガ、おいしいですね。」「飲みやすい」「お友だちにプレゼントしたい」と、気に入ってくれる方が増えました。置いていただいているお店でもよく動きますと言つていただき、感謝しています。

また縫製事業についても、バッグ類はもちろん、エプロン、スカート、ヨガパンツと服飾商品もよく動くようになってきました。世田谷の下北沢駅近くのセレクトショップの「三叉灯」さまでは、定期的にノベルティ商品のオーダーバッグ、大小の巾着など、年100枚以上数回にわたり納品させていただいている。

また、岐阜県恵那市の「山のハム工房ゴーバル」さまにもオリジナルデザインのトートバッグをご注文いただき、すでに200枚以上を納品しました。直線縫いのバッグがきちんと縫製できるようになった女性たちは、服飾品にもチャレンジし、丁寧な仕上がりですねとお客様からコメントを頂けるようになりました。

現在入荷したてのカディコットンスカートは、手紡ぎ糸を使った生地を使用しています。手触りよし、着用した時にからだにすっとなじむ感じがある、冬に温かく、夏に涼しいと評判の推しスカートです。

今まで、90cmのロングスカートを多く扱ってきたのですが、小柄な方や、シニアの方々からスカート丈短めで、との希望があり、75cmのカディコットンスカートが登場しています。また3Lサイズなどのヨガパンツやスカートも個別オーダーしていただけるようになっています。

カタログやASHASTOREをご覧くださいませ。



⇨アーシャホームページ  
AVSカタログがあります  
ASHASTORE⇨

クレジットカードが使える通販  
在庫状況・色柄・サイズなどの  
お問合せは0287477840までご連絡くださいませ。



STORE



## マハトマ・ガンディーと カディ・コットンのこと



インド独立の父であるマハトマガンディーは、国民にスワadeshi(自給自足)を提唱しました。なぜなら20世紀初め、イギリスをはじめヨーロッパの国々はインド綿花を安価に輸入し機械織りした生地を高くインドに売りつけていたのです。独立運動の象徴として、ガンディーは、会議の間も、くつろぐときも、糸つむぎする姿を国民に見せていました。今でも、手紡ぎ、手織りの天然繊維布であるカディコットンは高級コットン生地として、インド国内で継承され、愛用されています。





## ルマ・ニッシャドさん ご結婚おめでとう！

有機農業組合の食品加工リーダーのルマさんが9月末で退職されました。11月23日に結婚し夫の実家のあるラクノウ市(U.P.州)に住むそうです。

彼女は16歳からマキノスクールの縫製クラス研修に参加、その後、9か月間の持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)も卒業しました。

村での裁縫教室講師、マキノスクールの農村女性のための裁縫事業リーダー、栄養改善母子保健事業のスタッフ、当組合(AOAC)の食品加工リーダーとして活躍されました。彼女は常にチャレンジ精神を持ち、農村女性のために尽力してくださいました。

結婚生活が祝福されますように祈ります！



マキノスクールの学生、スタッフと交流しながらインドの農村、農業、異文化について感じ、体験、学びます

## 2026年度SCSAD学生募集

- 学費 50万円：含まれるもの：研修期間中の寮費＆食費、インド国内交通費、研修旅行費、英語集中クラス代(2週間)、小遣い月500ルピー（約900円）研修旅行費（6日間程度）

- 渡航費、ビザ代、海外保険代は自己負担

- 応募資格：2026年9月1日～2027年3月20日 7か月間インドに滞在できる方、高校卒業以上、又は大学を休学できる方、心身健康、チャレンジ精神に富む方。お問合せ：recruitment@ashaasia.org（担当三浦）

- 応募締め切り 2026年3月31日

## 募 集

### インドスタディーツアー（一般）

2026年3月1日(日)～3月9日(月)  
旅行代金130,000円／1人

### インドインターンシップ・プログラム (学生対象)

2026年3月1日(日)～3月15日(日)  
旅行代金：¥135,000円／1人

(日本国内交通費、渡航費、海外保険代は自己負担)  
本会現地事業スタッフ及びマキノスクールスタッフと一緒に協働作業、近隣の農村を訪問、国際交流に参加し、異文化、農村・農業開発などを学びます。また、プラヤグラージ、バナラシ又はブダガヤ、デリー観光を週末にいたします。

- 経費に含まれるもの：滞在費、食費、インド国内研修費及びインド国内交通費、通訳代、観光費
- 催行：参加者5名以上。

羽田空港又はデリー国際空港集合、デリー空港解散  
お問合せ：recruitment@ashaasia.org（担当三浦）  
電話：0287-47-7840 デリー空港までマキノスクールのスタッフが送迎いたします。

応募締め切り2026年1月15日



ようになると、このような伝統的価値観に風穴を開けることになります。それは、家族崩壊ではなく農村生活を豊かにし、男女が尊敬しあい、助け合い、協働することが可能になります。インド人口の6割以上、約8億人が農村居住者です。この農村社会を改善する意思が必要です。農村青年が生まれ育った農村ではなく、都市部に向かって希望を見出しがる傾向から、今住んでいる農村の中も希望があることを示す必要があるのです。その変革のためにも、積極的な農村女性の参画が絶対不可欠です。



元VHVたちが健康食品として豆腐を製造し、有機農業組合を通して地元の消費者に販売している。現在では農村と都市消費者の他に、レストランや結婚式披露宴

## 農村保健ボランティア(VHV)育成事業からの教訓

13年前、JICA草の根事業として、母子保健と栄養改善プロジェクトを実施しました。持続可能な活動にするため、農村女性保健ボランティア（VHV）を事業対象地区から募集し、栄養や母子保健の基礎知識、調査や健康料理のための技術を習得してもらいながら活動を実施しました。応募してきた

50人の女性の半分程は1週間もしないうちに辞めてしまいました。彼女たちが研修や活動をしていました。彼らを巡回し、子どもの健康状態を調査しながらモリンガの効用、バランスの取れた調理の仕方等を説明するVHVたち。

一方、活動を継続できた女性たちは夫や家族の協力による間、誰がその代わりをするのか、また手当等の収入をきちんと家族に還元するのか等の理由で、夫や合同家族の家長から辞めるように引導を渡されたのでした。



よるものでした。例えば、元農村保健ボランティアのラダさんはプロジェクトが終了した後も、マキノスクールの総務と農業組合の会計補助員として8年程働いています。片道1時間半以上かけて3輪の乗り合いオートリキシャで通っています。通勤前に子どもの通学の準備、家族のための調理等をしてから7時には自宅を出て出勤するとのことでした。家畜の世話などの分担は、娘や義理の妹が協力してくれています。ラダさんは、得た収入で、祭りには家族に新しい服を新調してプレゼントし、子どもたちには、学校教育を続けさせています。このような女性の家族の中では、男尊女卑から女性への尊敬の念が家族の中で生まれてきます。

## 未来に向かっての女子教育と農村女性の雇用機会

現在は、政府の農村の小中学教育の改善策と相まって、男女同じように学校に通う子どもが増えてきました。20年前の調査では、農村女子の就学率は男子の20ポイントも低く、しかも、不可触民部落においては半数近くの女子児童は学校に通っていませんでした。簡単な読み書きさえもできない農村女性が半数以上という村は少なくなかったのです。インド特有のカーストや伝統的価値観が女子教育に対する壁となっていましたようです。

政府の就学率向上政策により状況は改善されつつあります。数年前に訪問した農村の政府系中学校をでは、様々な質問を生徒に投げかけると「学校の先生になりたい、看護師になりたい」と夢ではなく自らの目標を立て勉強している女学生が多くなったと感心させられました。クラスの中の生徒も男女半々となっていました。

子ども達の中から、将来は、農村の学校の先生になるもの、農村保健センターの助産師や保健師になるもの、更には農村生活を豊かにするために農村開発、生活改善に寄与できる活動に関わる者、雇用や収入向上を高めるために、食品加工や直接販売を組織する者が輩出することでしょう。

これらは全て、農村雇用を生み出し、農村の生活改善推進につながるのです。



弟妹の宿題の手伝いをする姉



# 農村開発と人材育成 持続可能な農業・農村開発

## 2025年 SCSAD研修旅行 (北部山岳地帯とデリー)

10月24日より29日まで北部インド山岳地帯ウッタルカンド州とデリーでSCSAD学生3名とスタッフ2名で研修旅行を実施しました。ウッタルカンド州においては大手の有機農産品ショップ、有機農業団体所属の有機農家による週末有機農産物直売所、同団体会長で有機農家のディパック氏の農家を訪問し、同州の有機農業の現状と動向について学びました。また、マキノスクールとの親交があるシンさんが勤める宿泊施設に宿泊させていただきました。その後、汽車でデリーに向かい、アラハバード有機農業組合の取引先でもある農産物流通業者、有機農産物販売店を訪問し、農産物の市場の現状と問題点などについて学びました。たくさんの友人に支えられての旅でした。心より感謝いたします。



左側：U.K.州政府機関の敷地を借用して直接販売をする有機農業生産者と加工業者を見学。生産者との多少の交流もできた。



右側：有機農産物を専門に販売する店舗を見学。店員からも色々な話を聞けた。



左：直売所の後、同所の代表で有機農家のディパックさんの自宅でU.K.州の有機農業の現状について様々な話を聞くことができた。夏季期間に食品加工部門でインターンをしていたディビアさん（右側3人目）も飛び入り参加。



右：U.K.州都にある森林博物館見学後の昼食風景。



右：U.K.州からデリーへ。組合スタッフのマンジーと合流。健康食材店HASORAを訪問。代表の八田さんより説明を受ける。同時に組合(AOAC)の商品を宣伝



右：日本食材流通業者のMain Dishを訪問。スタッフの西上さんより説明をうけた。



## 2025年度7月から11月までの活動及び訪問者



聖ヨセフ カトリック女子修道会シスターのための短期ワークショップ

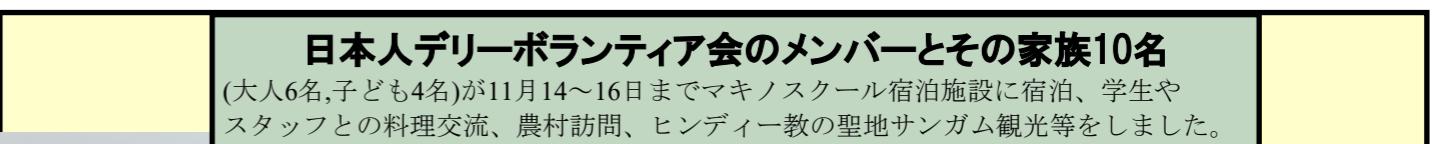


モリンガ葉の加工

10月13～17日まで、カリンポンからの修道女3名と学生1名がマキノスクールに宿泊し、豆腐とモリンガ加工を学んでいきました。同修道会付属農場でそれらの技術を実践したいとのことです。マキノスクールとSt.ジョセフ修道会は20年以上の友好団体で過去に8名のシスターがマキノスクールの持続可能な農業・農村開発コースを卒業しています。その一人Sr. レティシアが朝の集会で話をしてくれました。（写真 上）



自ら作った豆腐を手に



日本人デリーボランティア会のメンバーとその家族10名

(大人6名、子ども4名)が11月14～16日までマキノスクール宿泊施設に宿泊、学生やスタッフとの料理交流、農村訪問、ヒンディー教の聖地サンガム観光等をしました。



左・右：農村訪問。  
バルゴナ村とカリヤン村を訪問。村人との交流、野菜畑を見学、そして幼魚池で魚釣りをして楽しんだ。



左：料理交流。学生・スタッフはチャパティ・餃子の作り方を紹介、日本人ゲストからきな粉とみたらし団子の作り方を教わった。昼食は美味しいもので一杯。



左：朝6時半、太陽が昇るサンガムを訪問、巡礼者のようにボートで川の合流地点へ。